

平成26年度  
教育委員会事務事業に係る外部評価表  
(平成25年度事業対象)

○実施日 平成26年9月5日(金) 午前11時

○場 所 せたな町役場第1会議室

○外部評価委員

瀬棚区本町 鵜入 泰宏

大成区宮野 田嶋 潤

北檜山区松岡 東間千景子

北檜山区豊岡 千葉 憲之(欠席)

平成26年度せたな町教育委員会実施事業評価一覧表(平成25年度事業対象)

学校教育

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価	
					H24	H25
1	教育委員の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 委員会の開催(9回)</li> <li>○ 学校訪問(全10校、幼稚園)</li> <li>○ 全道・管内研修会出席</li> <li>○ 社会教育施設視察</li> </ul>	<p>委員会での案件審議、学校訪問での意見交換、研修会への参加など活動が円滑に行われた。</p>	自己評価どおりで良い	B	A
2	学校経営の円滑な推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定例校長会議における教育長示達</li> <li>○ 各月毎の学校経営の重点及び学校経営報告書の提出</li> <li>○ 教育課程の適正な管理及び新学習指導要領の実施</li> <li>○ 教職員の服務規律保持の指導</li> <li>○ 生涯学習指導主事の学校訪問（各学期毎）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定例校長会議において、教育長示達の中で教育行政執行方針の具現化に努めた。</li> <li>○ 各学校から毎月「学校経営の重点と経営報告書」、各学期末には「学校運営に係る自己点検票」、学年末には「教育執行方針達成度調査」の提出を求め、各校の実践事項や実情の把握に努めた。</li> <li>○ 小・中学校共に、全面実施となった新学習指導要領の円滑な実施とその充実に努めた。</li> <li>○ 教職員の服務規律等の厳守については、定例校長会議・教頭会議の中で資料を用いて指導を行った。</li> <li>○ 町生涯学習指導主事の学校訪問は、各学期毎の定期訪問計(25回)、教育局指導主事訪問時(計11回)、必要に応じて随時に実施し、各校の学校経営・学習指導・生徒指導等に関わる指導・助言を行った。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A	B
3	学力の向上対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国学力・学習状況調査及び町独自の標準学力検査を実施</li> <li>○ 「せたな町学力向上改善プラン」に基づく学習指導の改善</li> <li>○ 読書習慣の確立に向けた取り組みの推進</li> <li>○ 家庭と連携した家庭学習の習慣化については、教委配付の「家庭学習の手引き」、「家庭学習のすすめ」を参考に、各学校で取り組みが進んだ。</li> <li>○ 長期休業中や放課後の学習指導、チャレンジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国学力・学習状況調査については、採点結果を分析し、日常の学習指導や各学校の「学力向上改善プラン」作成に生かした。</li> <li>○ 各学校においては、年度当初実施の標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会作成の「せたな町学力向上改善プラン」をもとに学校独自の「学力向上改善プラン」を作成し、学習指導等の改善に取り組んだ。</li> <li>○ 各校、日課に朝読書の時間を入れるなど、児童生徒の読書活動の習慣化に努めた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B

		<p>テスト問題などの取り組みについても、学校の実態に合わせて行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ チャレンジテスト・トライやるウィークへの全校参加</li> <li>○ 久遠小学校へ教員免許を持った学習支援員を配置し、複式学級の指導支援に当たらせてた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教委作成の「家庭学習の手引」や「家庭学習のすすめ」により、家庭と連携しての取り組みが行われた。また、各校でも、学校独自の手引を作成するなど工夫した取り組みが進められた。</li> <li>○ 「長期休業時のチャレンジテスト」「トライやるウィーク」等への全校参加や、長期休業中の学習日設定、放課後学習等、自校の実態に応じた工夫をしながら学力向上に取り組んだ。</li> <li>○ 学習支援員を配置することで、人数が多い複式学級においての間接授業の際の児童の疑問やつまづきなどに適切に対応することができ、学習理解を深めることが出来た。</li> </ul>		
4	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳教育推進教師の校務分掌への位置付けと役割の明確化</li> <li>○ 「道徳の時間」の改善・充実に向けての指導</li> <li>○ 「心のノート」の活用と指導の充実</li> <li>○ 参観日等における「道徳の時間」の授業公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳教育推進教師については、町内全校で校務分掌に位置付けられ、その役割についても共通理解が図られた。</li> <li>○ 「心のノート」を活用した「道徳の時間」の改善・充実については、町内全校において日常実践及び校内研修等で取り組みがされた。</li> <li>○ 参観日等における「道徳の時間」の授業公開については、年間計画に位置付けられると共に、授業参観等において公開され、学校と家庭での連携した取り組みが進められた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B B
5	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育コーディネーターの校務分掌への位置付けと校内支援委員会の開催（全校）</li> <li>○ せたな町特別支援教育連携協議会の開催（特別支援教育における関係機関との連携組織の確認。「個別の教育支援計画及び指導計画」の作成手順・様式・留意点等について確認と作成時における課題の交流）</li> <li>○ 「特別支援教育支援員」の配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育上特別な支援を必要とする児童生徒の指導に関して、各校特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会や校内研修会を積極的に開催し、他の職員との共通理解を基に連携して日常生活の指導や学習支援が行われた。</li> <li>○ 特別支援教育連携協議会の組織の役割が明確になり、関係機関からの協力体制が整えられた。当該校では、特別支援学級在籍者を中心に、長期的支援を見据え「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成が進められた。</li> <li>○ 25年度の特別支援連携協議会は、12月に開催され、各</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A A

			<p>校の特別支援教育の推進状況や課題等が交流された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育委員会提供の「児童・生徒の学習・行動面に関する困難を調べるチェックリスト」の活用も進められ、高機能自閉症・LD・ADHDなどの気づきに役立てられた。</li> <li>○ 特別支援教育支援員は、町内1園4校に計8名が配置され、特別な支援を要する児童生徒の生活・学習支援を行い、児童生徒のつまづきなどに随時対応することができた。 (北檜山幼稚園2名、北檜山小学校3名、若松小学校1名、瀬棚小学校1名、瀬棚中学校1名)</li> </ul>			
6	外国語指導助手等の派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語指導助手（ALT）の派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各中学校週1回 火曜日…瀬棚中 水曜日…北檜山中 木曜日…大成中</li> </ul> </li> <li>○ 外国語指導助手（J-ALT）の派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各小学校週1回 月曜日…玉川小 火曜日…北檜山小、馬場川小 水曜日…小倉山小、若松小 木曜日…久遠小 金曜日…瀬棚小</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語指導助手（ALT）を各中学校へ週1回派遣した。ALTは教科担任と打ち合わせて活動計画を作成し、学習が進められた。</li> <li>○ 小学校5・6年の外国語活動が必修となったことから、25年度から独自にJ-ALTを雇用し、各小学校に週1回派遣した。指導に当たっては、担任とJ-ALTが打ち合わせて活動計画を作成し、児童が楽しみながら英語の語学力を身につける学習が進められた。</li> <li>○ 希望する小学校については、ALTの空き時間を活用しての追加派遣をし、ネイティブ英語に触れる機会やコミュニケーション能力の育成に努めた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	A
7	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校での全教職員による生徒指導体制の確立</li> <li>○ 道のスクールカウンセラー派遣（拠点校：北檜山中学校・週1回）</li> <li>○ スクールソーシャルワーカーの配置（拠点校：北檜山中学校・週3回）</li> <li>○ 生涯学習指導主事への相談（学校訪問及び随時）</li> <li>○ 児童生徒指導対策会議の開催（4回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校においては、教委発行のいじめへの対応「教職員ガイドライン」をもとに、管理職を中心に組織的な対応が進められた。</li> <li>○ 教委では「学校不適応対策指導資料」を発行し、不登校対策、中1ギャップ、小1プロブレム、いじめ対策等の研修と指導を行った。</li> <li>○ いじめ対策については、全校で年間最低2回の「いじめアンケート」や教育相談が実施され、未然防止・早期発見・早期対応の取り組みが行われた。</li> <li>○ 今年度の調査によるいじめ認知件数は2件あったが、管</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	A

			<p>理職のリーダーシップの下、組織的に対応し、解決に向けて取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道のスクールカウンセラー派遣の継続、スクールソーシャルワーカーの北檜山中学校への配置と、学校と連携して不登校生徒の対応に当たった。</li> <li>○ 今年度の町内の不登校児童・生徒数は、13名(小学校5名、中学8名)であった。</li> <li>○ 町教委としては、不登校児童生徒の状況について毎月報告を求め、実態把握に努めるとともに、町指導主事が局の指導主事訪問時や必要に応じて各校を訪れ、いじめ・不登校についての情報収集や対応等について指導助言を行った。</li> </ul>			
8	教職員の資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校における校内研修の促進 (檜山教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問)</li> <li>○ せたな町教育研究会の充実 (町教育研究大会の開催、今金町との2町授業交流会、サークル活動の活発化)</li> <li>○ 町内各種教育団体への支援 (生徒指導連絡協議会、特別支援学級教育研究会、へき地複式教育研究会等)</li> <li>○ 校内研修コーディネーターによる若い教員の研修活動の推進(檜山教育局)</li> <li>○ 北海道教育研究所、檜山教育局主催の研修講座への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校では、研修部を中心に研修計画が立てられ、それに沿って校内研修が推進された。</li> <li>○ 教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問は、予定どおり進められ、各校の経営状況や児童生徒の実態把握、その後の指導・助言に大いに役立った。</li> <li>○ 町教育研究会及び町内各種教育団体の活動は、予定どおり活発に行われ、教職員の資質向上に寄与した。</li> <li>○ 瀬棚小学校を本務校、玉川小学校と北檜山小学校を兼務校とし、校内研修コーディネーターを中心に師範授業や授業研究、3校の若い先生の合同研修等が積極的に進められ、力量アップが図られた。</li> <li>○ 各種研修事業については、道研、ミニ道研、学力向上に関する研修会、生徒指導研など積極的な参加がみられた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B
9	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「栄養教諭を中核とした食育推進事業」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の要望に応じて学校栄養教諭を派遣しての「食に関する指導」</li> <li>・ 食生活実態把握のための「アンケート調査」(全校)</li> <li>・ 食の安全性の認識を図る給食試食会</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校や中学校において、栄養教諭による食育教育を中心とした「食の指導」を計画し、児童生徒の食に対する意識を高めた。</li> <li>○ 町内全校を対象とし「食に関するアンケート調査」を実施し、児童生徒の食生活の実態や課題が明らかになった。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A	A

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の学校給食センター見学</li> <li>○ 学校給食だよりの発行（毎月）</li> <li>○ 安全安心な地元食材の活用</li> <li>○ 町内のアレルギー児童生徒のデータ収集とアナフィラキシーショック等のアレルギー症状についての対応資料の作成と配布</li> <li>○ せたな町食育推進検討委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PTAや地域と連携した地元食材を使った調理実習も開催されるなど、各校で工夫された食育教育が推進された。</li> <li>○ アレルギー児童生徒の情報を共有することで、給食センターと学校の連携を深めるとともに、資料を通してアレルギーへの理解や事故の未然防止、事故が起きた際の対応等についての職員研修に役立った。</li> <li>○ せたな町食育推進検討委員会において、児童生徒の食に関する意識を高める方策について充実した話し合いを進めることができた。</li> </ul>			
1 0	幼児教育の充実	平成 25 年度入園児童数 39 名 (3 歳児 10 人 4 歳児 11 人 5 歳児 18 人)	園生活を通して友だちと係わりながら基本的な生活習慣や道徳性を身につけるなど、就学前幼児教育がなされている。また、特別支援を必要とする園児には、保護者の同意を得ながら特別支援教育支援員 2 名を配置し、個に応じた支援を行った。	自己評価どおりで良い	A	A
1 1	学校健診事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒内科検診 621 名実施</li> <li>○ 児童生徒尿検査 622 名実施</li> <li>○ 児童寄生虫卵検査 186 名実施</li> <li>○ 児童生徒歯科検診 619 名実施</li> <li>○ 児童生徒心臓（心電図）検診 121 名実施</li> <li>○ 児童生徒耳鼻咽喉科検診 317 名実施</li> <li>○ 中体連駅伝選手心臓検診 54 名実施</li> <li>○ 児童生徒眼科検診 565 名実施</li> </ul>	学校と関係機関との連携の下で、学校保健法に定められている各種健診を計画的に実施し、児童生徒の健康管理に努めた。	自己評価どおりで良い	A	A
1 2	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経営方針の説明、学校だよりの配付</li> <li>○ 学校評議員の委嘱</li> <li>○ 学校関係者評価委員（外部評価委員）による学校評価</li> <li>○ 学校支援地域ボランティアの人材を外部講師として招聘</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各校では、年度当初の参観日等で経営方針の説明を行うとともに、学校だより等で日常の児童生徒の様子を保護者や地域に知ってもらえるよう努めた。</li> <li>○ 学校評議員・学校関係者評価委員の視点から、学校経営等について意見をいただき、地域の意向を把握した学校運営が行われた。</li> <li>○ 学校支援地域ボランティアについても、各校の計画に沿って積極的に活用された。</li> <li>○ 学校評価については、自己評価（学校評価、児童・生徒</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A	A

			評価、保護者評価等) や学校関係者評価が実施され、それらの結果については、PTAや参観日、学校だより等を用いて公表された。			
1 3	子どもの安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校での「危機管理マニュアル」及び「火災や地震時の防災訓練」の点検・見直し、及び学校の立地条件に応じた火災・地震・津波・洪水などの実践的な対処や訓練が実施されている。</li> <li>○ 交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室等の実施。</li> <li>○ 各区毎に地域の関係機関・団体との情報交換を行い、町内安全パトロールの実施。 (子どもの安全を守る連絡協議会～夏休み前に開催) (生徒指導連絡協議会～各学校の決まり確認、子どもの様子等の情報交流、研修会の開催)</li> <li>○ 各学校の通学路の安全点検を随時実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教委発行の「学校危機管理の分類表」及び「危機管理資料(各校の標高・海岸からの距離)」をもとに、各学校における「危機管理マニュアル」の点検と見直しが行われ、災害時における立地条件に即した対処・訓練が行われた。</li> <li>○ 各学校では、防犯訓練・防犯教室・薬物乱用防止教室など実際の場面に即した訓練を実施することで、危機管理下における児童生徒の安全確保を図った。</li> <li>○ 各区内の関係機関・団体と連携しながら、登下校時や帰宅後の安全指導及び祭典時の巡回指導などに努めた。</li> <li>○ 通学路の整備</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	A
1 4	児童生徒への就学援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要保護世帯 小学生 4世帯 4名 中学生 6世帯 9名 計 13世帯 13名</li> <li>○ 準要保護世帯 小学生 28世帯 39名 中学生 24世帯 28名 計 52世帯 67名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校と連携のもとで、経済的援助を必要とする世帯に対して学用品費・修学旅行費等への支援を行った。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A	A
1 5	学校教育環境の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 久遠小学校体育館屋根改修工事</li> <li>○ 久遠小学校PH屋上防水改修工事</li> <li>○ 瀬棚小学校体育館外壁改修工事</li> <li>○ 瀬棚小学校遊具改修工事</li> <li>○ 北檜山中学校グラウンド排水改修工事</li> <li>○ 瀬棚中学校耐震改修工事実施設計業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建築後25年～30年を経過する学校が多く老朽化も進んでいるが、児童生徒が安全安心な学校生活を送るため、必要箇所の修繕については随時実施し適正な維持管理に努めた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B

16	教育の情報化の推進 (新規)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校実物投影機購入事業 (7校全普通学級 書画カメラ、マグネットスクリーン、プロジェクター 各25台)</li> <li>○ 中学校実物投影機購入事業 (3校全普通学級 書画カメラ、マグネットスクリーン、プロジェクター 各9台)</li> <li>○ 小学校児童用パソコン購入事業 (久遠15台、瀬棚15台、馬場川1台、若松5台、玉川3台、北檜山21台、小倉山1台)</li> <li>○ 大成中学校パソコン購入事業 (教員用1台、生徒用15台)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報機器を活用しながらの授業の工夫・改善が図られた。</li> <li>○ パソコンを用いた「調べ学習」の充実</li> </ul>	自己評価どおりで良い	—	B
----	-------------------	--	---	------------	---	---

(評価指標)    **A** 十分達成されている    **B** おおむね達成されている    **C** やや不十分である    **D** 不十分である



## 社会教育

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価	
					H24	H25
17	生涯学習講座 （青少年健全育成）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 薬物乱用防止教室（7/11 北檜山中学校）</li> <li>○ 性教育講話（9/10 北檜山中、11/6 瀬棚中）</li> </ul>	生徒の生活課題や発達段階に合わせたプログラムが継続的に取り組まれた。	自己評価どおりで良い	B	B
18	生涯学習講座 （地域課題解決）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ちょこっとチャレンジ講座「人形劇」（3/15 24名参加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町内の読み聞かせグループのさらなる充実、また他町の読み聞かせグループとの交流が図られた。</li> <li>○ 参加者には高校生も含まれており、これからの活動に期待の持てる事業となった。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B
19	学校開放講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大成中学校開放講座「小学生水泳教室」（3回 受講者11名）</li> <li>○ 玉川小学校開放講座「陶芸教室」（3回 受講者9名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門的な知識、多様な技を持っている教諭に協力してもらい、住民への学びの場に幅を持たせる事業となった。</li> <li>○ 学校を開けた場所にするという目的は達成できていない。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B
20	ふるさと学習講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然観察会（5/18 大成区 参加者20名）</li> <li>○ 北の里山自然体験会（9/7 北檜山区 参加者21名）</li> <li>○ 渡り鳥観察会（2/22 大成区 参加者19名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 25年度は森林探索をしながら自然活動を体験できる事業が行われた。</li> <li>○ ふるさとを知り、親子や地域の人との交流に繋がった。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B
21	学びあいネットワーク交流事業 地域学習の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北檜山若葉会「料理教室」（2/25 参加者10名）</li> <li>○ 大成区宮野女性会「押し花教室」（3/12 参加者10名）</li> <li>○ 大成区宮野女性会「生活相談」（3/19 参加者12名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自ら学ぶ機会を作り、住民が相互に学び合う環境が作れた。</li> <li>○ 地域団体の充実さらなる発展の見込まれる事業となっている。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B
22	学校支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北檜山区地域ボランティア連絡協議会（小学校4校 中学校1校 35プログラム）</li> <li>○ 大成区地域ボランティア連絡協議会（小学校1校 中学校1校 14プログラム）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域のボランティアを通じて、学校が授業を行うなど地域と学校の連携が図られた。</li> <li>○ ボランティアも毎年数人増加しており、多様な知識を持つ地域の方の協力を得られている。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A	A

		○ 瀬棚区地域ボランティア連絡協議会 (小学校2校 中学校1校 28プログラム)				
23	P T A団体・女性団体等への支援	○ P T A連合会 (団体支援 補助金190千円 10団体加盟) ○ 女性団体連絡協議会 (団体支援 補助金340千円 会員数262)	○ P T A団体についての事業は円滑に運営されているが、補助金申請が遅滞するので指導が必要 ○ 女性団体は、属している会の衰退があり、北檜山区女連協の脱退、会の高齢化など課題となっているが、団体の活動は活発であり、町として女性の活躍を期待できる事業となっている。	自己評価どおりで良い	B	B
24	高齢者大学	○ 北檜山いきがい学園(学生数70名) ○ 瀬棚寿大学(学生数12名) ○ 大成くおん大学(学生数27名)  合同事業 ○ 入学式・記念講演会(5/21 参加者109名) ○ 修学旅行(10/2~3 岩手県 参加者33名) ○ 修了式・記念講演会(3/4 参加者91名)	○ 各区それぞれの特色を活かした活動が計画的に進められている。 ○ 学生の要望や社会情勢の動きを取り入れたプログラムが実施され、充実した学習機会の場となっている。 ○ 合同事業も定着し、区を越えた学生相互の交流が図られている。	自己評価どおりで良い	A	A
25	青少年教育施設 女性教育施設	○ 北檜山区 (青少年女性研修所、青少年センター) ○ 大成区(青少年会館) ○ 瀬棚区(児童会館)  *利用状況等別紙のとおり	各施設とも有効に利用されている。	自己評価どおりで良い	B	B
26	読書活動に推進に関する取り組み	○ 各区図書施設事業 ○ 子ども読書活動推進計画による事業 (別紙のとおり)	○ 図書館、図書室との連携事業 ○ ブックスタートや読み聞かせの実施 ○ 読書活動を促進するボランティアや職員の資質を目指す研修会の開催	自己評価どおりで良い	B	A
27	家庭教育学級・子育て学級	実施なし		自己評価どおりで良い	D	D

28	児童生徒宿泊研修事業 北海道ジュニアリーダーコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フロンティアアドベンチャー (8/9～11 札幌市・留寿都村)</li> <li>○ 北海道ジュニアリーダーコース (道教委主催) (7/29～30 ネイパル森)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フロンティアアドベンチャー事業については、定員を上回る事業となっている。</li> <li>○ 高校生サブリーダーの要請では、檜山北高校に全面的な協力をもらい定着してきている。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A	A
29	休日活動の促進 放課後対策事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親子懸かり島釣り大会 (瀬棚区 参加者 27名)</li> <li>○ ニュースポーツ普及教室 (北檜山区 35名 瀬棚区 39名)</li> <li>○ プールでOPヨット体験 (瀬棚区 参加者 3名)</li> <li>○ マリンスポーツ体験 (瀬棚区 参加者 6名)</li> <li>○ アクアゲーム教室 (瀬棚区 参加者 3名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の体験活動の促進を図り、様々な分野での実践活動が展開された。</li> <li>○ 各団体と連携し、多数の地域住民とのふれあい交流が図られた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B
30	子ども育成会等青少年育成 団体への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども育成会連絡協議会 (団体支援 補助金 210千円)</li> <li>○ 親子ふれあい推進事業 「第19回ミニミニ大運動会」 (大成区 参加者 85名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 休日を活用した室内レクリエーションを中心に児童生徒の健康づくり活動が図られた。</li> <li>○ 親子のふれあいや他団体との交流を深め地域連帯感の高揚が図られた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	C
31	趣味教養講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども英会話教室 (受講者 11名)</li> <li>○ 初心者英会話教室 (受講者 10名)</li> <li>○ 新春書初め大会 (参加者 21名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども英会話教室については、英語を楽しく学ぶことが定着してきている。</li> <li>○ 初心者英会話教室については、和やかな雰囲気の中、レベルの高い英会話が出来ている。</li> <li>○ コミュニケーションの場としても活用されており、住民の学びが充実してきている。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B

3 2	文化団体 町民文化祭実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化協会 (団体支援 補助金 200 千円)</li> <li>○ 町民文化祭実行委員会 (団体支援 補助金 500 千円)</li> <li>○ 文化祭開催 北檜山会場 (展示 11/2～3 芸能 11/17) 大成会場 (展示 11/2～4 芸能 11/9) 瀬棚会場 (展示 11/2～4 芸能 11/10)</li> </ul>	文化活動者の発表機会の場として計画的に実施されている。	自己評価どおりで良い	A	A
3 3	芸術鑑賞機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化講演会「三田佳子講演・パネル展示」 (ふれあいプラザ 350 名)</li> <li>○ 芸術鑑賞会「小樽商科大学マドリコンサート」 (せたな町民体育館 60 名)</li> <li>○ ぐるっと美術館「移動美術館」 (ふれあいプラザ 300 名)</li> <li>○ 芸術鑑賞会「ジャズとワインのタベ MIZUHO」 (ふれあいプラザ 120 名)</li> <li>○ ジョン神塚ピアノコンサート (瀬棚町民センター 100 名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画的な芸術鑑賞機会が提供できた。</li> <li>○ 町民のニーズの高い事業となっている</li> </ul>	自己評価どおりで良い	A	A
3 4	文化財の保護・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有形文化財 青い目の人形 (北檜山区) 阿波浄瑠璃人形 (北檜山区) 明珍信家作兜 (北檜山区) 荻野吟子遺品・資料 (瀬棚区) 南川遺跡出土の遺物 (瀬棚区)</li> <li>○ 無形文化財 久遠神楽 (大成区)</li> </ul>	文化財の保護・活用に努める。	自己評価どおりで良い	B	B
3 5	郷土芸能団体への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土芸能団体連絡協議会 (団体支援 補助金 220 千円)</li> </ul>	各団体で積極的な各種イベントへの参加による自主活動(発表)が行われている。	自己評価どおりで良い	B	B

36	健康づくり促進事業	○ 町民歩こう会 (9/21 参加者 42名)	○ 健康づくり促進に向けた取り組みとして継続的に実施された。 ○ 住民のニーズの高い事業となっている。	自己評価どおりで良い	B	B
37	健康づくり講座 スポーツ専門講座	○ らく楽筋トレ体操 (3/26 参加者 20名)	○ 体力向上、健康増進及びトレーニングに関する基礎知識の向上が図られた。	自己評価どおりで良い	B	A
38	町民スポーツ大会 区民スポーツ大会	○ 町民ソフトボール大会 (9/1 出場 7チーム) ○ 町民駅伝大会 (10/5 出場 17チーム 78名) ○ 子ども体力チャレンジ祭り (10/12 小学生ほか 24名参加) ○ 大成スキー大会 (1/25 参加者 50名) ○ 町民スキー大会 (2/16 参加者 44名)	○ 計画通りに進められている。 ○ スポーツ活動の促進が図られている。	自己評価どおりで良い	A	A
39	各種スポーツ教室の開催	○ マリンスポーツ体験 (7/15 参加者 2名) ○ 少年少女水泳教室 (北檜山区・瀬棚区 参加者 40名) ○ 初心者スキー教室(北檜山区 参加者 11名) ○ スキー教室(大成区 参加者 42名) ○ 移動スキー教室(瀬棚区 参加者 11名)	○ 水泳教室については人気の高い教室となっている。募集学年や内容も適当である。 ○ 専門的な講師を依頼し、より充実した事業になるよう努める。	自己評価どおりで良い	A	A
40	ニュースポーツ体験教室	○ ニュースポーツ普及教室 (北檜山区 35名 瀬棚区 39名) ○ プールでOPヨット体験 (瀬棚区 参加者 3名) ○ カヌー体験(瀬棚区 参加者 2名) ○ アクアゲーム教室 (瀬棚区 参加者 3名)	○ ニュースポーツは比較的低学年の参加が多く、普及を図るというよりも体を動かすことがメインとなっている。 ○ カヌーやOPヨットの体験は参加人数が少ない状態にあり、普及が困難となっている。	自己評価どおりで良い	B	B

4 1	スポーツ団体等への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育協会</li> <li>○ スポーツ少年団</li> <li>○ 合宿招聘事業</li> <li>○ スポーツフェスタ実行委員会</li> <li>○ B&amp;G海洋クラブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各団体それぞれで計画的な活動が行われている。</li> <li>○ 団体運営に対する活動補助支援が継続的に進められている。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B
4 2	学校施設開放事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校施設の開放 北檜山区 2施設 2団体 大成区 4施設 7団体 瀬棚区 該当団体なし</li> </ul>	効果的な開放事業となっており、住民の活動拠点となっている。	自己評価どおりで良い	B	B
4 3	海洋リーダー派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海洋体験セミナー 北海道大会「水上の部」 (8/4 小平町 6名参加)</li> </ul>	計画通り実行された。	自己評価どおりで良い	B	B
4 4	スポーツ施設の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大成プール濾過機濾材交換工事</li> <li>○ 農村広場管理棟トイレ改修工事</li> <li>○ 大成スキー場リフトコントロール線取替修繕</li> <li>○ キャリーエース昇降ウインチ交換修繕</li> <li>○ 夕陽が丘パークゴルフ場水飲み場設置工事</li> <li>○ 北檜山スポーツ公園ゲートボール場屋根等改修工事</li> <li>○ 北檜山スポーツ公園野球場グラウンド改修工事</li> <li>○ せたな町民体育館玄関タイル改修工事</li> <li>○ 真駒内球場暗渠等改修工事</li> <li>○ B&amp;G 海洋センター体育館緑遠赤外線放射暖房機修繕</li> <li>○ B&amp;G 海洋センター体育館入口外灯改修工事</li> </ul>	各施設とも、住民の活動拠点として効果的に利用されている。	自己評価どおりで良い	B	B
4 5	国際交流のつどい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホストファミリー対面式</li> <li>○ 町内見学</li> <li>○ 歓迎パーティー</li> <li>○ 合同学校交流（玉川・小倉山・若松）</li> <li>○ いきがい学園クラブ活動への参加</li> <li>○ 茶道教室</li> <li>○ 陶芸教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 留学生の活動プログラムを通して、異文化交流が図られた。</li> <li>○ 町内の子どもから高齢者まで、国際交流が図られた。</li> </ul>	自己評価どおりで良い	B	B

46	姉妹都市交流推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 姉妹都市交流推進協議会総会</li> <li>○ ハンプフォード市訪問団派遣事業</li> <li>○ ジョン神塚ピアノコンサート</li> </ul>	○ H25より中学生を派遣	自己評価どおりで良い	A	A
----	-------------	---	---------------	------------	---	---

(評価指標) **A** 十分達成されている    **B** おおむね達成されている    **C** やや不十分である    **D** 不十分である